

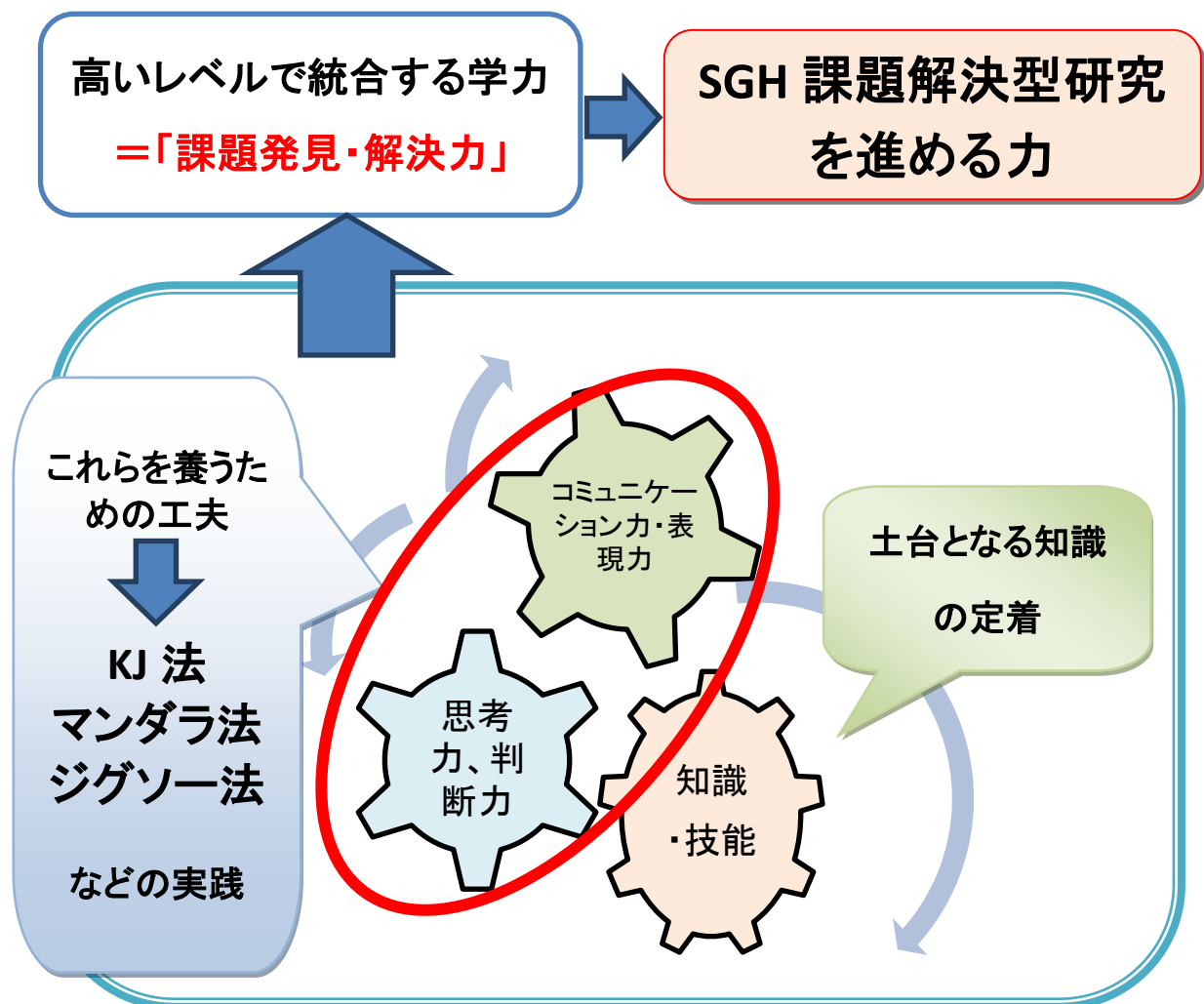


◇ 地歴公民科の授業改善

<授業改善の具体的な取り組みと方策>

- ① 普段の授業において、確かな知識・技能の習得を目指す。
- ② 身に付けた知識・技能・語学力をもとに、思考力や判断力を育成し、コミュニケーション力、表現力を伸ばす授業方法を研究し、授業に生かす。
- ③ 修得した様々な力を課題発見・解決力へと統合し、SGH課題解決型研究や国際貢献活動に生かす。

<H30年度の地理歴史・公民科授業改善モデル>



これに基づき、土台となる知識の定着を平素の授業で進めつつ、それらの知識を活用して考えたり、表現したりする活動を実践する。これらの活動によって生徒の「課題発見・解決能力」を育成していくことは、SGHにおける課題解決型研究を進める力へとつながる。

◇ 研究授業（地理）

○日時：平成30年12月4日 第1時限

○科目：地理B

○実施クラス：2年5組

○授業者：梅村はる香

○単元：日本の自然の特徴と人々の生活

○テーマ：日本の自然災害と防災・減災

◆授業の概要

- ・学校周辺の地形図から、津保川に見られる伝統的防災手段「霞堤」を探し、霞堤の効果が活かされているかを考察する。
- ・ハザードマップを活用して、学校にいる際に避難指示が出た場合の安全な行動を考え、グループで意見をまとめる。

◆授業の様子



パワーポイントの活用



グループ学習の様子



ハザードマップからの読み取り



安全な行動について意見をまとめる

◇ 研究授業の成果と今後の課題

- ・前期にも同じ地形図を使ったグループ学習を行っている。地形図の読み取りに苦手意識を持つ生徒も多いため、地図を見る機会を増やすことを心掛けている。地形図を活用することで、生徒がこれまでの授業で身に付けた知識・技能を生かす授業を行うことができた。
- ・生徒への問いの投げかけを工夫する必要がある。必要な情報はプロジェクターで示すなど、すべての生徒に等しく指示が伝わる方法を考えたい。
- ・改善すべきこととして、単元構成や授業構成において、活動をどのような意図でどこに位置づけるかを明確にしなければならない。その際、その活動が単元又は本時の目標と一貫性を持つように工夫していきたい。